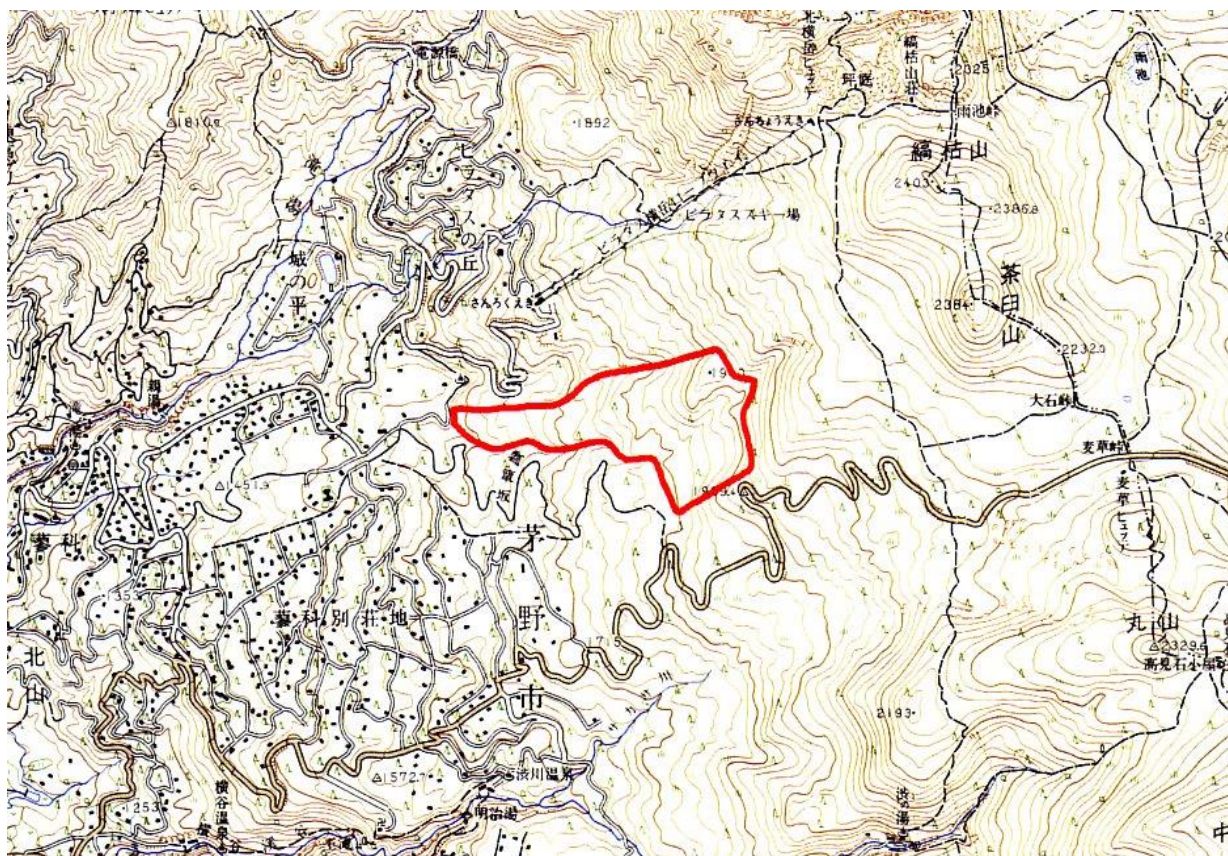


北山県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(蓼科山)を使用したものである。

<沿革>

オオシラビソの縞枯れで有名な茅野市の縞枯山の麓、標高1,550mから1,940mに位置し、県有林周辺には別荘や保養所などが造成されています。

大正2年6月6日に創設され、採草地として利用されていた入会地270haを購入した後、大正時代に137haのカラマツの植栽を行うなど積極的に森林造成を進めてきました。母樹林に指定されていたカラマツはその頃のもので、中には胸高直径が70cmを超えるものもあります。

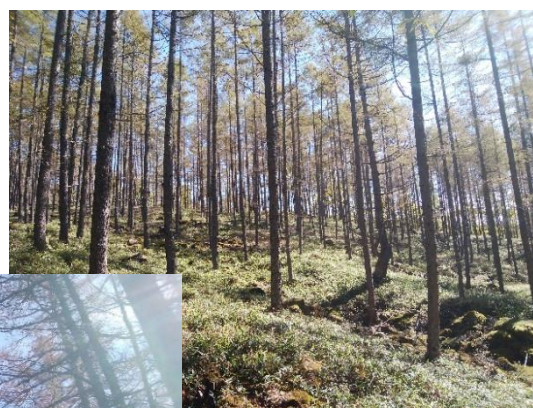
昭和40年代の県庁舎建設時に約6割が売却され、現在の面積は101haとなっています。

<現況・特色>

カラマツが70%を占め、一部には亜高山性の下層植生が見られます。

全域が国定公園の第3種特別地域に指定されています。

また、茅野市と県有林利活用協定を締結し、オリエンテーリングやツリークライミング等の自然体験の場としても活用されています。



標高1600m付近のカラマツ林



標高1930m付近のカラマツ林

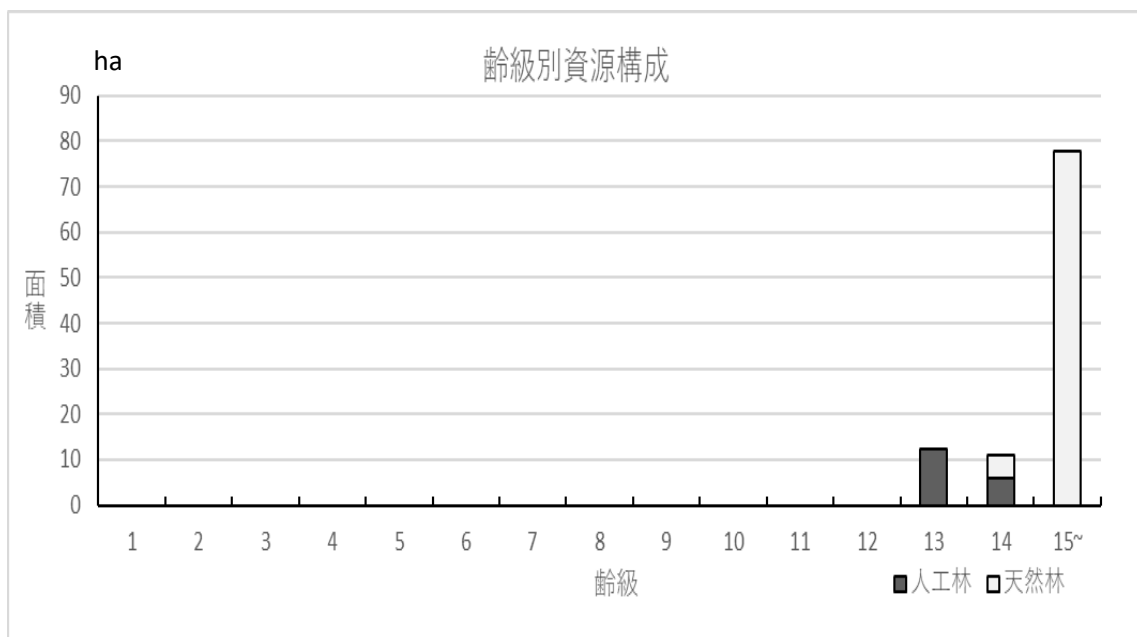
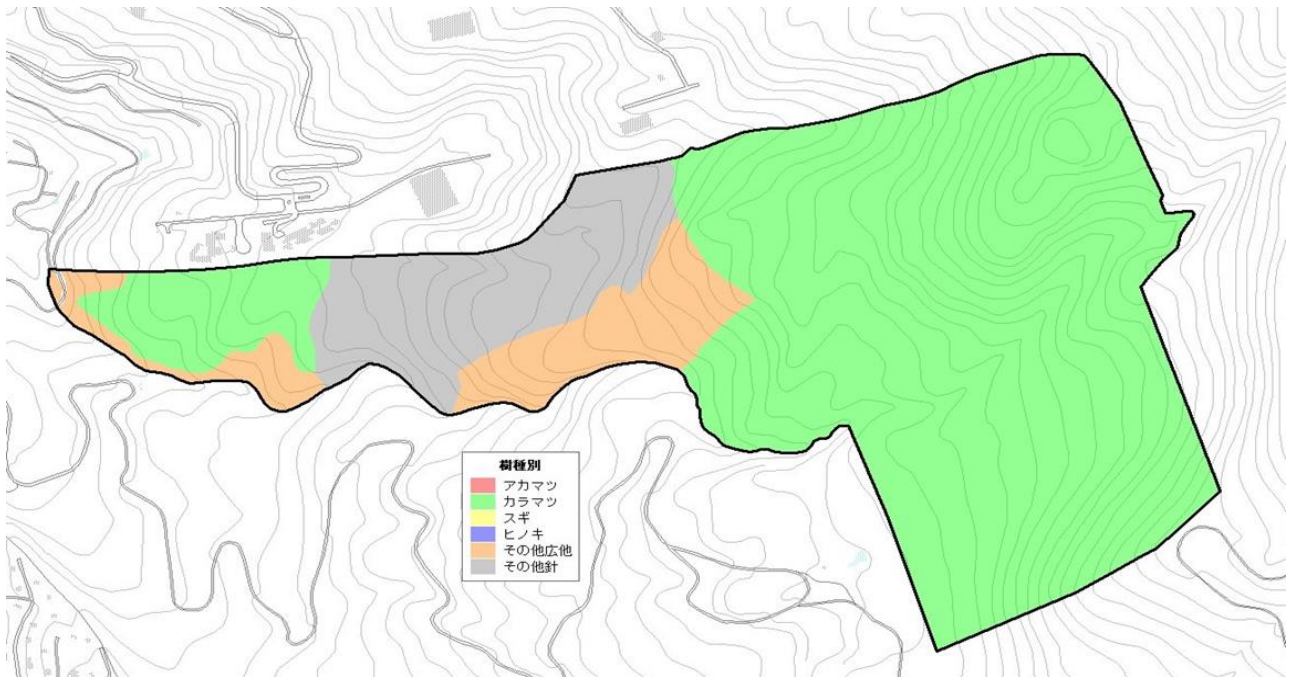
<森林整備の方向>

人工林を長伐期施業として管理しますが、利用者や景観に配慮し、皆伐を避けた施業を行います。林業経営よりも公益的機能の増進を図ることに重点を置き、整備を進めます。

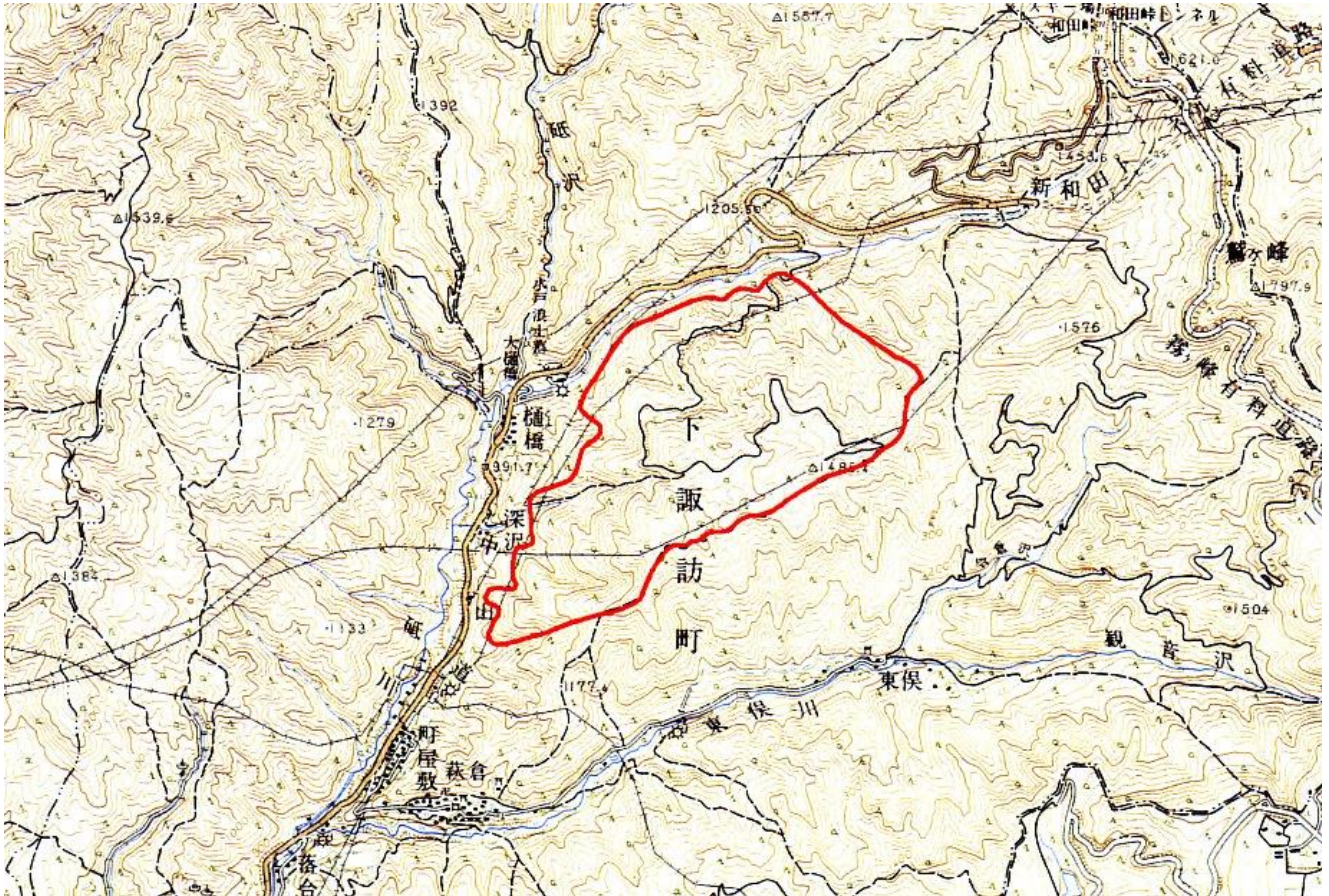
<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
101.31				70.63	12.32	18.25	0.11
100%				70%	12%	18%	0%



下諏訪県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(諏訪)を使用したものである。

<沿革>

下諏訪町の北側、標高950mから1,490mに位置し、昭和44年8月12日、下諏訪町有林を購入して創設されました。

その町有林は明治38年、製糸工場の燃料調達のため伐根まで掘り取られて禿山となった入会地の惨状を憂いた各地区役員が、学校林造成のために地上権の寄付を行ったことが始まりだと言われています。

<現況・特色>

ヒノキやカラマツを主体とした森林であり、林道御堂ヶ峰線をはじめ路網も整備されています。

シカの生息数が非常に多く、立木への被害が深刻化している中で、効率的なシカの捕獲技術の実証試験を実施しています。また、主伐期を迎えるカラマツ林が多く、被害木の処分及び効率的な更新が今後の課題です。

過去には地域の高校生等に活用されていたほか、小学生がドングリを拾って苗木を生産するといった活動も行っていました。



被害木

<森林整備の方向>

林道御堂ヶ峰線沿線においては、傾斜が25度以下の林分で効率的木材生産型施業、25度～35度の林分では帯状伐採等、小面積分散型施業を検討します。再造林地においては、獣害防護柵の維持管理をしっかりと行い、確実な成林に努めます。

比較的齢級の低いヒノキは、獣害対策を行いつつ保育間伐を実施し、資源の充実を図ります。

また、林道から離れた南側の林分については、奥地林施業を行い、公益的機能の増進を図ります。

<樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
328.54	0.74	33.38	96.48	66.9	15.92	58.34	56.78
100%	0%	10%	29%	20%	5%	18%	17%

